

阿蘇火山における地球化学的観測*

Geochemical observation at Aso Volcano

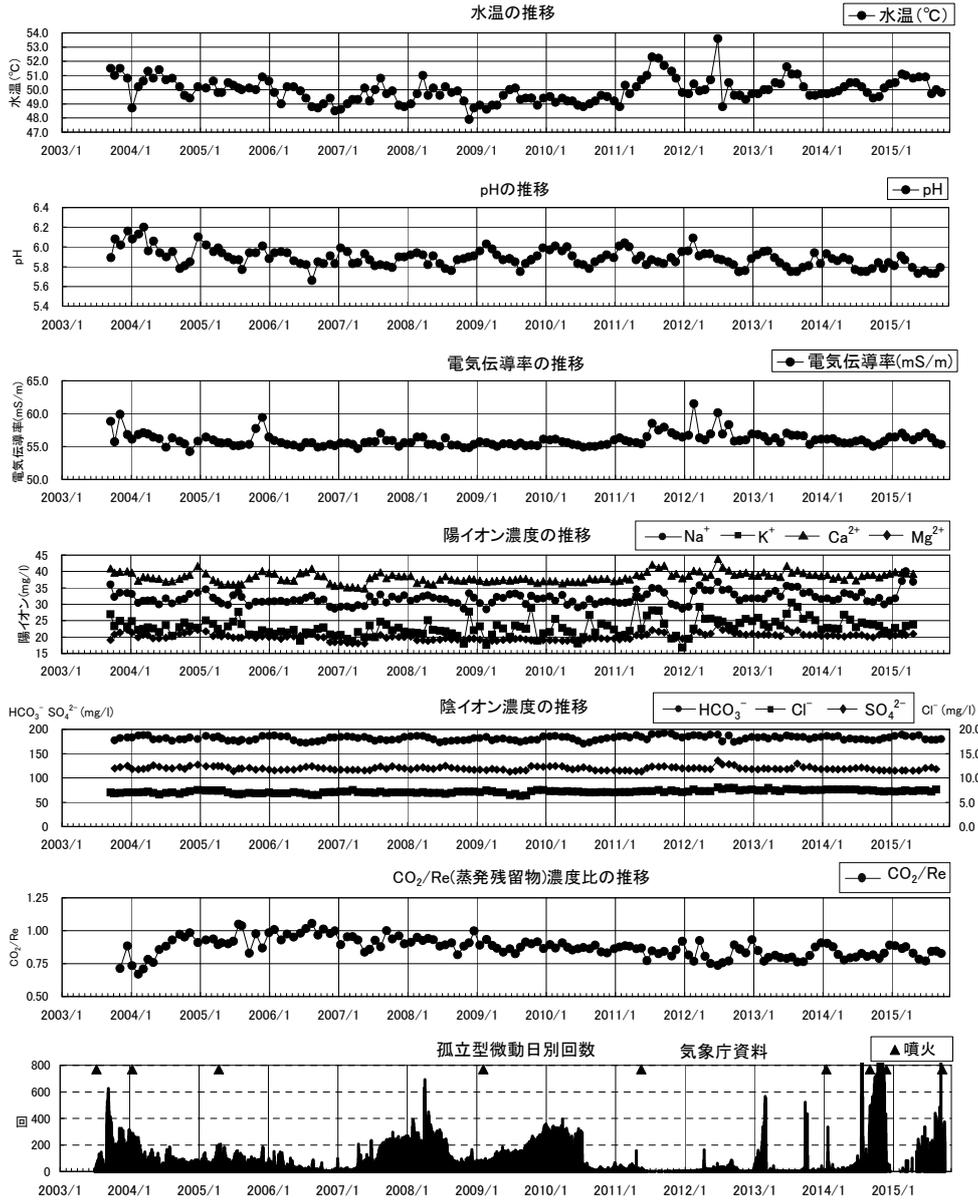
九州大学大学院理学研究院 地震火山観測研究センター**
Institute of Seismology and Volcanology, Faculty of Science, Kyushu University

九州大学地震火山観測研究センターでは、垂玉温泉山口旅館本湯における温泉観測を、通常月に1回程度の頻度で実施している。観測源泉は中岳火口から、南西約5 km に位置しており、含硫黄-カルシウム-炭酸水素塩泉（硫化水素型）に分類される。

2003年9月以降の観測結果を、孤立型微動日別回数（気象庁資料）とともに図1に示す。

垂玉温泉の水温は、2011年2月頃から上昇傾向に転じ、変動はあるものの、やや高い状態で推移して、現在に至っている。

電気伝導率や溶存陰イオン類は安定して推移し、顕著な変化は認められない。溶存二酸化炭素相対濃度（二酸化炭素濃度／蒸発残留物濃度）は、2007年以降、漸減傾向を示していたが、2011年末頃からは、増減を繰り返しながら、現在に至っている。



第 1 図 垂玉温泉山口旅館(本湯)の水温・pH・電気伝導率・主要化学成分濃度・CO₂/Re(蒸発残留物)濃度比の推移(2003年9月～)。孤立型微動日別回数は気象庁資料。

Fig.1 Changes in temperature, pH, electrical conductivity, main chemical component concentration and CO₂/Re (evaporation residue) concentration ratio at Yamaguchi Japanese Inn (Motoyu) of the Tarutama hot-spring (September 2003~). Daily number of the isolated tremor is from the JMA.